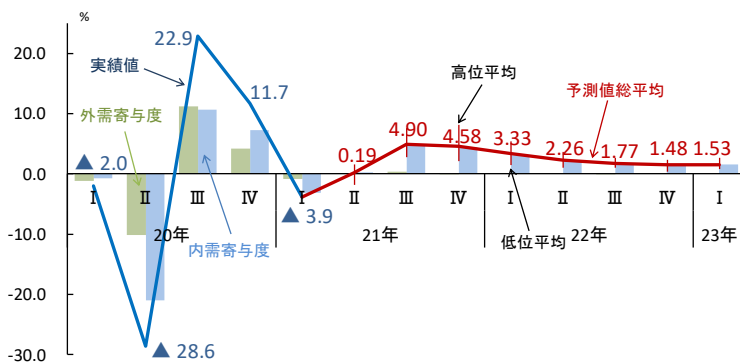


1 2021年4～6月期の実質経済成長率(前期比年率)は0.19%、7～9月期は4.90%。

21年4～6月期の実質経済成長率(前期比年率)は0.19%と前月調査並みだった。7～9月期は4.90%増の見込み。



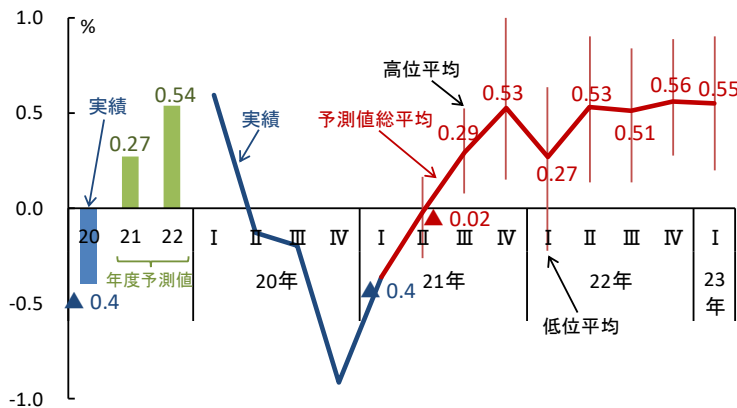
◆21年II期(4～6月期)実質GDP及び内訳の増減率(%)

実質GDP 前期比年率 (前期比)	民間最終 消費支出	民間企業 設備投資	財貨・サー ビスの輸出	財貨・サー ビスの輸入
0.19 (0.05)	▲0.35	0.88	2.57	2.55

(注) 内訳4項目は前期比。

3 消費者物価上昇率(前年同期比)

21年4～6月期は▲0.02%で、7～9月期にプラスに転じる。年度でも0.27%となり、以降はプラスが続く見込み。



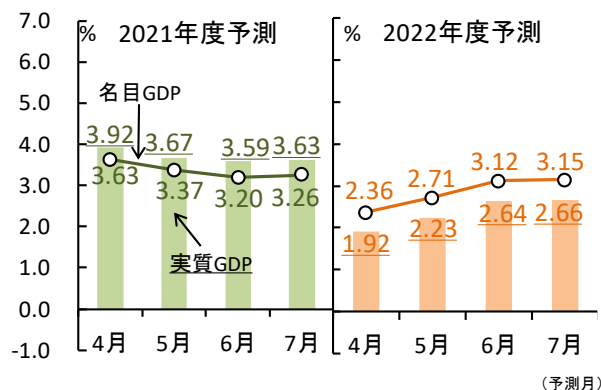
(注) 生鮮食品除く総合の前年同期比上昇率。

(特別調査) 2023年度CPI上昇率予測

平均…0.74% (高位平均…1.29% 低位平均…0.34%)

2 実質経済成長率は21年度3.63%、22年度2.66%。

21年度の実質経済成長率は3.63%と3年ぶりにプラスに転じ、22年度は2.66%と、ともに前月調査とほぼ同水準であった。名目成長率も21年度以降プラスが続く。



(特別調査) 2023年度実質GDP成長率予測

平均…1.35% (高位平均…2.03%、低位平均…0.78%)

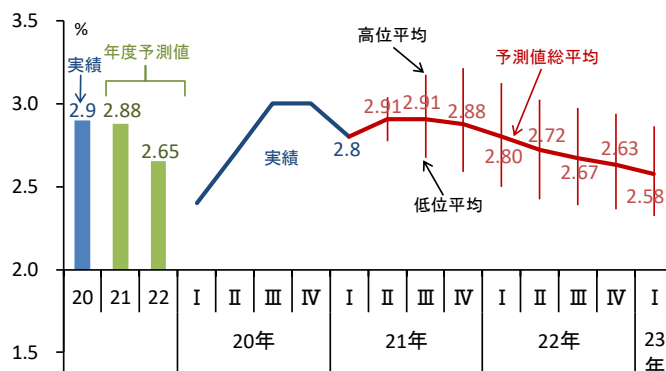
	2021年度	2022年度
内需寄与度	2.6 (3.2/2.0)	2.6 (3.2/2.0)
うち内需	2.1 (2.8/1.7)	2.4 (3.1/1.8)
うち消費	0.5 (0.7/0.2)	0.2 (0.5/▲0.1)
外需寄与度	1.1 (1.5/0.8)	0.0 (0.4/▲0.2)
実質GDP成長率	3.63 (4.38/3.00)	2.66 (3.31/2.01)

(注1) 値の見方: 平均(高位平均/低位平均)

(注2) 1・2の寄与度は簡易計算によるもので厳密なものではない。

4 失業率

21年4～6月期に2.91%へ上昇、10～12月期以降23年1～3月期まで低下が続く。



5 21年4～6月期の成長率（その他項目）

主要4項目以外の需要項目について、21年4～6月期の動きを尋ねた。上昇するという回答が多い項目は、「民間住宅投資」と「政府最終消費」だった。

（回答数 37）

（実質）	民間住宅投資	民間在庫変動	公的固定資本形成	政府最終消費	公的在庫変動
上昇	32	5	24	28	0
横ばい	2	9	4	7	37
低下	3	23	9	2	0
回答数	37	37	37	37	37

（注）フォーキャスター数（名）。前期比伸び率の符号を質問し、プラスの場合に「上昇」、ほぼゼロの場合に「横ばい」、マイナスの場合に「低下」とした。在庫変動はGDP成長率に対する寄与度を尋ねた。

6 景気の転換点・・・18年10月が山

18年10月の景気転換点（山）（政府見解、暫定）の次の景気転換点（谷）はもう過ぎたかどうかを聞いた。（回答数 36）

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・36名（前月調査 36名）

転換点（谷）は2020年4月・・・1名、2020年5月・・・34名、2020年7月・・・1名

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・0名（同0名）

転換点（谷）を過ぎたと思う人にその次の景気転換点（山）も過ぎたかどうかを聞いた。

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・0名（前月調査 1名）

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・36名（同 35名）

今後1年以内に転換点（山）がくる確率の予測の平均・・・24.0%（同 24.1%）

7 （特別調査）金融政策と金利見通し

1) 金利見通し

21、22年末の短期政策金利と長期金利の誘導目標の見通しを尋ねた。短期政策金利は、21年末は回答者全員が現行並みの「▲0.1%以上0.0%未満」と回答し、22年末も「▲0.1%以上0.0%未満」が多かった。（回答数 37）

長期金利の誘導目標は、21年末は回答者全員が現行並みの「0.0%以上0.1%未満」と回答し、22年末も「0.0%以上0.1%未満」が多かった。（回答数 37）

長短金利の予想値分布 (%)		▲0.3 未満	▲0.3 ～ ▲0.2	▲0.2 ～ ▲0.1	▲0.1 ～ 0.0	0.0 ～ 0.1	0.1 ～ 0.2	0.2 ～ 0.3	0.3 ～ 0.4	0.4 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0以上
短期の政策金利	現行=▼	▼											
	2021年末				37								
	2022年末			1	36								
長期金利の誘導目標	現行=▼	▼											
	2021年末				37								
	2022年末			1	35	1							

（注）フォーキャスター数（名）。例えば、「▲0.1～0.0」は「▲0.1%以上0.0%未満」の意味。

2) 枠組み自体の変更

上記の見通しに関して枠組み自体の変更などを聞いたところ、枠組み見直しの時期など2名のフォーキャスターが答えた。

【詳細は9ページ参照】

8 (特別調査)米国金利

1) 政策金利見通し

21、22 年末の米国の政策金利（FFレート・市場実勢値）の予想を尋ねた。21 年末は回答者全員が「0.0%以上 0.25%未満」と答えた。22 年末も「0.0%以上 0.25%未満」が多かった。（回答数 37）

米FFレートの予想値分布(%)	▲1.0未満	▲1.0 ～ ▲0.75	▲0.75 ～ ▲0.5	▲0.5 ～ ▲0.25	▲0.25 ～ 0.0	0.0 ～ 0.25	0.25 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0 ～ 1.25	1.25 ～ 1.5
2021年末						37					
2022年末						34	3				

(注) フォーキャスター数 (名)。例えば「0.75～1.0」は「0.75%以上 1.0%未満」の意味。

2) 長期金利見通し

21 年 12 月末、22 年 6 月末、12 月末の米国の長期金利（10 年国債）の予想を尋ねた。回答が多かったのは、21 年 12 月末は 1.6%以上 2.0%未満、22 年 6 月末は 1.8%以上 2.1%未満、12 月末は 1.9%以上 2.1%未満だった。（回答数 36）

米国の長期金利 (10年国債)の 予想値分布(%)	0.9 ～ 1.0	1.0 ～ 1.1	1.1 ～ 1.2	1.2 ～ 1.3	1.3 ～ 1.4	1.4 ～ 1.5	1.5 ～ 1.6	1.6 ～ 1.7	1.7 ～ 1.8	1.8 ～ 1.9	1.9 ～ 2.0	2.0 ～ 2.1	2.1 ～ 2.2	2.2 ～ 2.3	2.3 ～ 2.4	2.4 ～ 2.5	2.5 ～ 2.6
21年12月末	1				1	2	2	8	7	5	7	3					
22年6月末		1		2			2	1	4	7	8	7	3			1	
22年12月末				1	1	1		3	2	2	8	8	4	2	1	1	2

(注) フォーキャスター数 (名)。例えば「1.0～1.1」は「1.0%以上 1.1%未満」の意味。

9 景気のリスク

半年から 1 年後にかけて景気上昇を抑える（あるいは景気を反転させる）可能性がある要因を聞いた。「新型コロナウイルスの感染状況」が最も多く、「中国景気の悪化」「米国景気の悪化」「原油価格の上昇」と続く。「その他」に 5 名が回答し、自動車減産（2 名）、新興国経済の減速、早期の財政引き締め（2 名）、早期の増税を挙げた。（回答数 36）

[リスクとして挙げた理由（18 名が回答）については 9 ページを参照]

◆景気のリスク(複数回答、3つまで)

① 円高	3
② 株安	4
③ 金利上昇	5
④ 原油価格の上昇	12
⑤ 公共投資の減少	0
⑥ 米国景気の悪化	13
⑦ 中国景気の悪化	20
⑧ IT部門（電子部品など）の悪化	1
⑨ 国内政治の不安定化	1
⑩ 国際関係の緊張や軍事衝突	6
⑪ 保護主義の高まり	1
⑫ 新型コロナウイルスの感染状況	29
⑬ オリンピックの再延期・中止	0
⑭ その他	5

(注) フォーキャスター数 (名)。

10 (特別調査)オリンピック開催

今回の予測に、21 年度のオリンピック開催を織り込んでいるかを尋ねたところ、回答者全員が織り込んでいると答えた。（回答数 37）

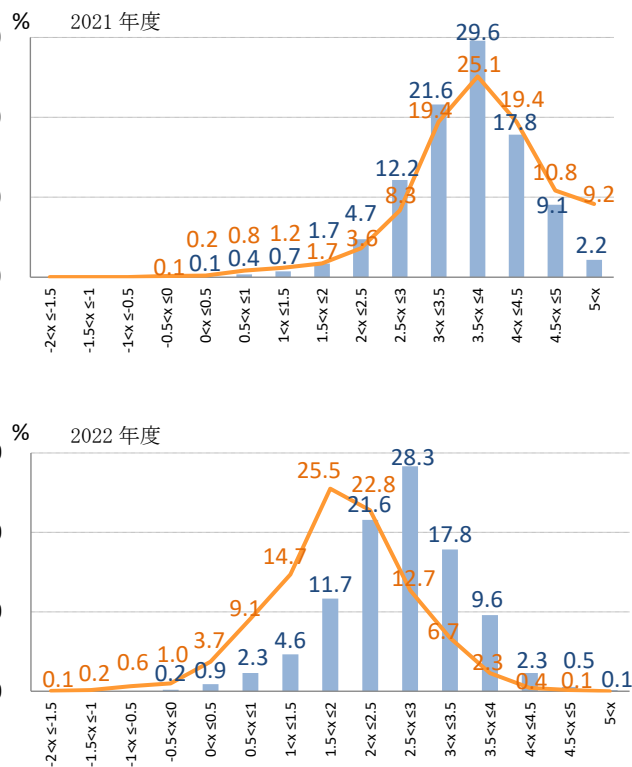
◆2021 年度のオリンピック開催を予測に織り込んでいるか

	はい	いいえ
オリンピック開催	37	0

(注) フォーキャスター数 (名)。

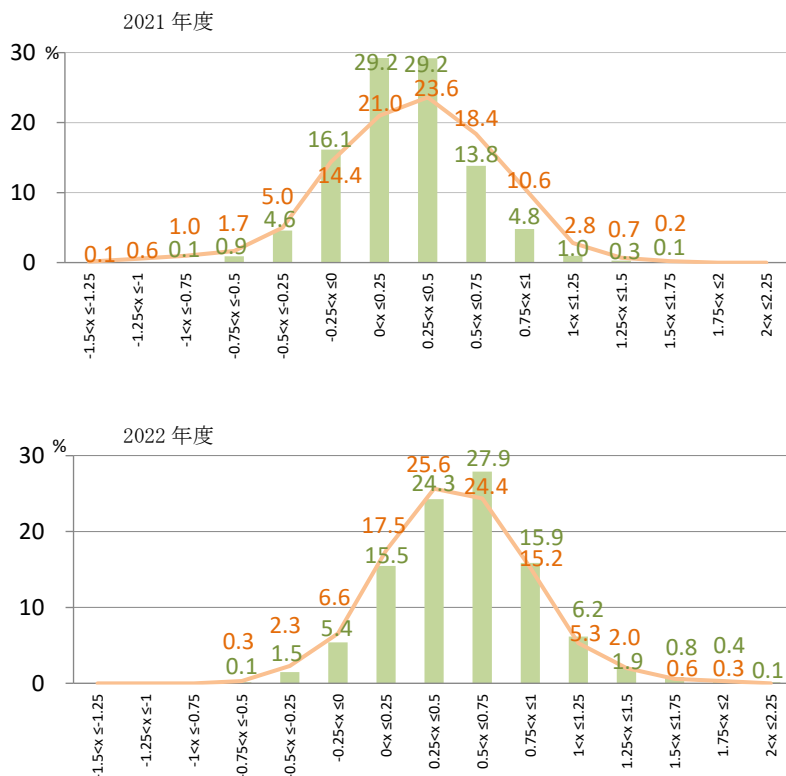
実質 GDP 増加率のコンセンサス予測の不確実性

-各レンジの平均確率-



CPI(生鮮食品除く総合)騰落率のコンセンサス予測の不確実性

-各レンジの平均確率-



(注)各フォーキャスターが各レンジに付した確率の平均値。折れ線グラフは、21年4月の予測値。

(参考) 海外主要3カ国・地域の実質GDP成長率予測(暦年、%)

	米国	ユーロ圏	中国
2020年	▲3.5	▲6.8	2.3
2021年	6.57 (6.45)	4.28 (4.08)	8.74 (8.55)
2022年	3.92 (3.81)	3.97 (3.79)	5.48 (5.39)

(注) 20年は実績値。()内は前月調査。

次回(2021年8月調査)の公表予定は8月12日頃